

民生費、衛生費を増額

国・地方を通じて厳しい財政環境の中にあつて、地方自治体の新たな枠組みが検討・推進される中、機動的で効率的な行財政運営が求められています。

池田町では第四次総合計画の内容を再検討しながら、必要性、効果などを見極め、限られた財源の効率的な予算配分に努めました。

予算規模、総額122億円の内訳は今年度の予算規模の表(3ページ)のとおりです。前年と比較すると4.3%の減額となっています。

一般会計については、総額72億9,400万円で、対前年比3.3%減額となっています。歳入では、町税が前年比5.6%の減額、地方交付税については12.9%の減額、町債は37.3%の増額を見込みました。

歳出については、福祉施設整備による福祉の拠点づくり、快適な環境



池田浄化センター

づくりなどのため、民生費では前年比6.8%の増額、衛生費については21.2%を増額しました。商工費は、昨年度で健康福祉施設池田温泉の建設事業が終了したこと、前年比87%の減額となっています。

町民一人当たり

負担するお金		使うお金			
固定資産税  46,007円	町民税  35,487円	民生費  63,331円	土木費  40,396円	商工費  3,399円	公債費  22,290円
たばこ税  3,934円	軽自動車税  1,597円	教育費  40,202円	衛生費  41,715円	消防費  12,161円	議会費  4,872円
鉦産税及び 特別土地保有税  44円	合 計 87,069円	農林水産業費  37,830円	総務費  30,748円	その他  1,147円	合 計 298,091円

この数字は、4月1日現在の人口24,469人で算出しています

税金 ってなんだろう

13

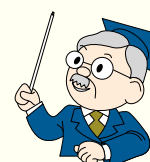
税金の歴史について勉強してみましょう。

日本で税金の制度が初めてできたのがいつ頃か、みなさんは知っていますか？

なんと1,200年以上も昔の大化の改新から奈良時代にかけてだといわれています。708年に、日本で最初のお金「和同開珎」が造られました。多くの人々にその値打ちが信用されず、一部の場所以外では税金には使われなかったということです。

それでは、何で税金を納めていたのでしょうか？

答えは、お米、布、労働です。お米で納める税金は「租」といって、地方の役所に税金の一部として納めることになっていました。その量は一年間にとれたお米の3%くらいだったといわれています。布で納める税金は「調」といって、お米よりも重要な税金でした。布はお米より軽くて、運びやすいため、お金の代わりに、他の物との交換に使われることも多かったのです。そして労働で納める税金は「庸」といっていました。新



今月の納税

国民健康保険税 第1期
6月2日(月)

このように、人間一人一人に対してかける税金のことを「人頭税」といいます。国民が政府のためにいるいる働くこと、そして働いた結果できたものを政府にささげること、これが古代の「税金」とよばれるものなのです。それにしても、そんな昔から税金があったなんてびっくりですね。